



# カレッジ college news だより

2003 October.  
vol.

4

道民カレッジ受講生数  
11,953人 (9月現在)

## 「博士まで、道は遠いが」

環境生活コース 道民カレッジ学士  
江別市 蛭川剛之氏



北海道遺産シリーズ「増毛・ニシン街道の旅」というツアーに参加した。今年の6月14日のことである。

北海道遺産というのは、「北海道にしかない宝物！次の世代に引き継ぎたい北海道ならではの宝物！数ある有形、無形財産の中から、北海道全体の宝物として選ばれたもの」で、1万6千点の応募の中から平成13年10月に選定された25件のことである。

なお、現在その第2期分について募集している。

それには、松前城、小樽港の防波堤などの建造物のほか、摩周湖などの自然やアイヌ文様などが選ばれている。その中に「増毛の歴史建造物」と「留萌のニシン街道」が入っており、それを訪ねるのが、この「増毛・ニシン街道の旅」であった。

木造校舎の増毛小学校や小平町の花田番屋に関心があったし、國稀酒造での「鬼ころし」の試飲も楽しみである。加えてこのツアーに参加すると、道民カレッジほっかいどう学コースの8単位が付与される。

当日、昼食を摂ってのあと、新潟県から移築したという和風の建物を眺めていると声が掛かった。「もしかして、道民カレッジの？」と。聞けば3月27日に開催された「学士取得者による意見交換会」に出席されていた人である。

釧路に住むというその人に、受講の苦労話を聞いた。年に何回かは泊りがけで札幌に出るという。札幌学院大学にも集中的に通ってくるそうだ。その向学心には、ただただ頭が下がるばかりである。

江別市文京台に住む私にとって、自転車で行ける札幌学院大学はホームグラウンドである。

この大学は夏の土曜公開講座のほか、各学部が公開講座を開き、学生と一緒に学べる機会を作ってくれる。また、札幌会場での講座もあり、私の取得する単位の大半は、この大学から得ている。付け加えて言えば、札幌会場以外は、受講料がいらぬ。

昨年10月、環境生活コースで学士の称号を頂戴したが、修士号については、各コースに取得単位が散らばっていて、年内には難しそうだ。

私の所属する古希野球「北海スターズ」の全国制覇の方は夢に終わりそうだが、修士、博士の方は、継続の意思と健康があれば実現可能である。

焦らず、一步一步というのが目下の心境である。ただ孫達には、博士号を取ったらフクちゃんの角帽を被って、盛大にお祝いをすると言っているところである。



平成15年度

# 道民カレッジ「大学放送講座」日程

北海道の各大学の先生の講座です。

● テーマ「北海道の人づくり、地域づくり」

平成15年10月4日～11月8日毎週土曜日 午前5時～午前5時30分 HBCでテレビ放映。

## 第1回

### 高度テクノロジー社会「心の発達環境問題」

10月4日（土）

〈内容〉・人間の基本的な力

・心の発達

・道具が可能にしたこと

・自責ストレート～道具によって拡大した力の責任を負う 等

北海道医療大学

中野 茂 教授

## 第2回

### 「高齢社会の健康づくり」

10月11日（土）

〈内容〉・食生活は欧米化したのか

・肥満は大きな健康問題

・生活習慣病は急速に発達したのか

・日本人に不足しているもの・高齢社会を生き抜く など

札幌医科大学

岡野 五郎 助教授

## 第3回

### 「シマフクロウが棲む森と川」

10月18日（土）

〈内容〉・森林や河川環境の破壊がシマフクロウを絶滅の危機に追いやってきた

・シマフクロウの生態を知ることで、我々がなすべきことを明らかにする

生息環境復元を目的として開始された森林再生事業の紹介 など

札幌大学

早矢仕有子 助教授

## 第4回

### 「雪～天から送られた手紙」

10月25日（土）

〈内容〉・北海道で最も身近な自然環境である「雪」

・雪は日常の暮らしから、水資源、農業、文学など社会のあらゆる側面で生活と深い関わりをもつ

・雪は雲の中でどのように誕生し、成長するのか など

北海道教育大学

高橋 庸哉 助教授

## 第5回

### 「縮む日本経済と北海道の未来」

11月1日（土）

〈内容〉・危機が迫るが、ほとんど理解されていない日本経済の現状と将来のすがたを理解する

・日本が危機に陥った理由を考える

・最大の不況対策は現状の深刻さを理解し合い、改革の目標を定めること など

北海道情報大学

浜淵 久志 教授

## 第6回

### 「地域社会と大学」

11月8日（土）

〈内容〉・地域社会と大学の関わりについて、事例をあげて紹介する

北海道東海大学

光澤 舜明 学長

※ 平成16年1月中旬より再放送を予定しています。

# スクーリングの日程と 開催会場をお知らせします



No.	日	程	開催町	担当講師
1	11月29日 (土)	13:00~	乙部町	北海道教育大学 高橋 庸哉 助教授
2	12月 4日 (木)	13:30~	余市町	札幌医科大学 岡野 五郎 助教授
3	12月 9日 (火)	19:00~	白滝村	北海道東海大学 光澤 舜明 学長
4	12月中旬	10:00~	根室市	北海道医療大学 中野 茂 教授
5	1月14日 (水)	19:00~	羽幌町	札幌医科大学 岡野 五郎 助教授
6	1月24日 (土)	10:00~	白老町	札幌大学 早矢仕有子 助教授
7	2月 7日 (土)	13:30~	南幌町	北海道医療大学 中野 茂 教授
8	2月13日 (金)	19:00~	浜頓別町	札幌大学 早矢仕有子 助教授
9	2月 (未定)		静内町	北海道情報大学 浜淵 久志 教授
10	2月21日 (土)	18:00~	帯広市	北海道情報大学 浜淵 久志 教授
11	2月23日 (月)	10:00~	札幌市	北海道教育大学 高橋 庸哉 助教授
12	2月23日 (月)	13:00~	札幌市	北海道東海大学 光澤 舜明 学長

## 「地域学」と大学の役割

北海道大学 教授 木村 純氏

道民カレッジには「ほっかいどう学」が位置づけられています。生涯学習をより豊かなものにするには、北海道をどのような地域に発展させていくかについて、多くの道民が参加する討論と交流の場に「道民カレッジ」が成長することが重要です。そのためには「地域学」としての「ほっかいどう学」を基礎にする学習プログラムの開発が課題となります。

大学の「地域学」の取組をみると、歴史学者の増田四郎は、著書『地域の力』で、地域学を「ひとつの『地域』という共通項を媒介に、政治・法律・経済・地質・動植物・歴史・経営……のあらゆる分野の研究を動員し、共同総合させ、その地域に住む民衆の意識や心性をトータルに究明する」ものと述べました。この考え方を踏まえて、東京経済大学が1990年に一般教育の総合講座「多摩学」をスタートさせ、同時に、「多摩学」を共通テーマとする特別企画講座を地域住民を対象に始めました。同じ1990年には「多摩学会」が設立されていますが、この学会は「数十校を越える多摩在住の大学とそこの研究者が多摩という地と関わっていく拠点として設立され」、大学が多摩地区の地域住民との「生活・文化と福祉の向上に貢献する重要なパートナー」（設立趣意書）になることが目指されています。

鹿児島大学は、2000年度から、全学プロジェクト「地域学の創造—新しい鹿児島学」の研究に着手しました。地方国立大学が「知的資源の貯蔵庫としての役割をもちながら、地域への還元という点では不十分な成果しか挙げてこなかったこと」を反省して、地域社会が直面する、さまざまな地域問題に対して、その知識資源と総合大学としての学際性、利害にとらわれない立場を活用して、「環境共生型社会としての地域社会の将来像を構築すること」が宣言されています。

これらの貴重な実践に学びながら、道民カレッジにおいても道内の高等教育機関と道民の協働による「ほっかいどう学」の構築が課題となっていると思います。



「今年度の北海道大学の全学公開講座」

北海道大学でも地域課題に総合大学としてアプローチする立場から公開講座のあり方を再検討していく必要性が議論されつつある。

# 道民カレッジ連携講座の紹介

## 高等学校地域連携講座モデル事業

北海道教育委員会 主催

道立高校とその所在地域および近隣の市町村が連携して、地域づくりの活力を高めるため、地域における生涯学習機会の拡充を図ります。

地域の歴史・文化や産業、まちおこし、子育てや高齢者介護、環境問題や時事的な話題の基礎知識などをテーマに、学校の教育・施設機能を有効に使い、地域課題と取り組む講座（道民カレッジ連携講座）などを共同で企画・運営するモデル事業を、全道14管内で実施します。（今年度は7管内）

### 道立高校地域連携講座モデル事業指定校一覧

区分	モデル事業指定校	区分	モデル事業指定校
石狩	<b>浜益高等学校</b> 〒073-1401 浜益村大字浜益村50-22 TEL 013379-3164	上川	<b>上川高等学校</b> 〒078-1763 上川町東町148 TEL 01658-2-1409
渡島	<b>福島商業高等学校</b> 〒049-1331 福島町三岳161-1 TEL 01394-7-2131	胆振	<b>苫小牧工業高等学校</b> 〒053-0035 苫小牧市字高丘6-22 TEL 0144-36-3161
檜山	<b>檜山北高等学校</b> 〒049-4433 北檜山町丹羽360-1 TEL 01378-4-5331	日高	<b>浦河高等学校</b> 〒057-0006 浦河町東町かしわ1丁目5-1 TEL 01462-2-3041
空知	<b>赤平高等学校</b> 〒079-1121 赤平市北文京町1-2 TEL 0125-32-2141		

◎ 道立高校地域連携講座の日程や詳しい内容については、後日道民カレッジのホームページ上でお知らせいたします。

#### カレッジだより

平成15年10月発行

編集・発行 道民カレッジ事務局

財団法人 北海道生涯学習協会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目かでの2.7ビル9階

TEL (011) 231-4111(内線36-343) FAX(011) 281-6664

URL <http://www.hsgk.jp/college/>